

ほっこり通信



当法人職員が業務の中でほっこりしたエピソードを紹介します。
今回は『ワークセンターやまと』松永職員のエピソードです。

私が所属している「ワークセンターやまと」は、企業就労を目標に、企業からの受注作業を通じて、社会人としてのマナーや知識、作業能力向上に向けた訓練を行っています。ある利用者の方が、髭剃りが出来ずに苦戦しておりました。その為、『身だしなみ講座』と題して、髭剃りの方法を私から伝えました。講座後も本人に合ったやり方を何度か伝えていましたが、剃り忘れる事が多く見受けられました。

ですが、先日その方に嬉しい事を言われました。いつものように作業終了後見送りをしていると、その方から「教えてもらった通りにやったら綺麗に出来たので見てください」と言われたのです。一瞬マスクを下ろしてもらい確認すると、とても綺麗に剃っていました。少し剃刀負けしたであろう傷もあり、苦戦しながらも頑張ってくれたのかな？と思い、心がほっこりしました。

世界にひとつだけの食器を作ろう

～ワークショップ・SUN、ワークショップ・SUN 横山の余暇支援活動紹介～

ワークショップ・SUN ワークショップ・SUN 横山では、コロナ禍での取り組みとして、土曜稼働を利用して「ポーセリン」に取り組みました。



<ポーセリンとは>

「ポーセラーツ」「ポーセリンアート」とも呼ばれ、転写シートを切って白い磁器(ポーセリン)に貼り付けて電気炉で焼くハンドメイドです。貼り付ける転写シートは市販されているため、どなたでもクオリティの高い作品が作れるのでおすすめです。

<作成方法>

講師の中村のりこ先生が、花やくだもの、蝶、動物など数種類の転写シートを選び、利用者の皆さんが貼りやすいサイズに事前にカットしていただきます。その中から皆さんが好きな絵柄を選び貼り付けます。シートは水に浸して台紙からシールをはがして白磁に貼っていくため、しわにならない様に貼っていくのがコツです。今年度のピュアハート作品展にも出展しました。



<参加者の声>

- ・いつも参加しています。
- ・作品をお母さんにあげたいです。
- ・出来上がってくるのが楽しみです。



○今回サポートした職員も、一緒に楽しみながら参加出来ました。
どれも個性的で素敵な作品ばかりなので今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。

編集後記

自分も出産育児を経験した中で、今号の特集記事の作成を通して、自分のこれまでの働き方などについて振り返る機会を持ちました。改めていろんな方に助けをいただいたことで働き続けることができたことと感謝の気持ちがわきました。出産育児だけではなく、だれもが働き続けていく中で生活に変化が出る可能性があります。成果を出していかないといけない中ではありますが、法人で働く職員同士、お互いの立場を思いやりながら働きたいと思っています。

(広報委員会)

～イベント情報～ <クリーンウォーク 2022> 10月29日(土) 開催予定!

昨年と同様に地域貢献の一環として、各事業所周辺のゴミ拾いを行います。

利用者の皆さん、奮ってご参加ください☆

広報 すずらん

発行日：2022年10月1日 (平成8年創刊)
発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 松屋 直人 URL: <http://www.suzuran.or.jp>
所在地：〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-6-4 TEL: 042-745-8080
編集：広報委員会



第85号
2022年10月

～Pure Heart(ピュアハート) 作品展 2022 開催～

今年度は7月25日から7月31日まで作品を展示しました。

ピュアハート作品展は、長年すずらんの会が主催している作品展で、すずらんの会に関りのある方々が手掛けた作品を展示しています。

昨今のコロナ禍でフェスタすずらんをはじめ、サロンコンサート、クリスマスライブのイベント行事が開催できず、地域との交流も少なくなっています。利用者の皆さんの作品を多くの人に見てもらいたい思いと、法人・事業所の取り組みを事業所紹介として、一人でも多くの方に見ていただきたいという思いから、近年冬に開催していたピュアハート作品展を、7月に開催する事と致しました。

実際に夏休みにプールを利用するお子さんや保護者の方など、冬の時期に比べて市民健康文化センターを利用される方は多く、出展準備の時から見に来ていただく方もいらっしゃいました。

展示されている作品をご覧になっていた方にお話を聞いてみると、ピュアハート作品展が毎年行われていることを知っているという方もいました。プールやお風呂にいらした方々は、ピュアハート作品展の事は知らなくとも展示されている様々な作品に足を止めて見ていらっしゃる方もいました。

近年ピュアハート作品展に向けて事業所ごとで作品を作成する取り組みを行っており、今年も事業所ごとの作品を展示しました。

コロナ禍での開催のため、多くの方に見ていただくという事は難しいかもしれませんが、今後も皆さんからお預かりした素敵な作品を多く展示していき、地域の方に喜んでいただける様継続していきたいと思えます。

<作品を出展したHさんに話を聞きました>



自分が描いた絵を見てもらえてうれしかった。

またいろんな作品を描いて見てもらいたい。



職員のワークライフバランスを考える ～仕事と子育ての両立～

今回の特集記事では出産、育児を経て働き続けている職員の声をお伝えします。出産、育児を行う職員を支えている育児休業制度などについて紹介し、改めて職員のワークライフバランスについて考えます。

労務担当職員に聞いたところ、当法人では最初に育児休業を取得したのは平成16年で、これまで女性職員の取得率は100%、男性も1名取得している実績(13日間)があるそうです。担当職員が育休の期間中にその職員に何度かメールや電話をして状況を確認しています。実際に育休を取得した女性職員や育児に協力している男性職員に話を聞きました。

Q1：初めから産休と育休を取って復帰するつもりでしたか？

- ☞制度的に復帰するつもりではありましたが、実際に子育てを行うと戸惑うことも多く、職員復帰できないかもしれないと思ったことも正直ありました。
- ☞採用面接の際、結婚が決まっている状態だったので、産休など考えていることは法人に伝えていました。
- ☞事業所に出産をひかえている先輩がいて、制度をどのように活用すれば復帰できるのかなどイメージができたため、復帰を考えていました。

Q2：復帰する前のイメージと復帰した後のイメージに違いはありましたか？

- ☞イメージは持ててなかったですが、復帰後に経験した退勤後の忙しさは想像以上でした。
- ☞復帰する前に復帰後のイメージは持ててなかったです。復帰後はあわただしかったです。
- ☞産休育休中は職場復帰できるのか不安でしたが、仕事復帰してみたら、温かく迎えてもらえたので復帰後何とかになりました。

Q3：時短勤務にしたメリット、デメリットはありましたか？

- ☞時短にしたことで保育園のお迎えに行けました。時短している時期に業務の調整がつかず、残業していたこともありましたが、制度的に良かったのかいまだに疑問です。
- ☞異動したことで自宅から遠くなったので、時短の制度を取らざるを得なくなった。時短制度を理解ないまま使っていたので、制度利用の前に法人から制度の詳細を説明して欲しいと思いました。
- ☞給料はだいぶ減りました。ただ時短を取らずに仕事と両立することは難しかったです。先輩たちは1時間のみの短縮でしたが、自分は規定を読み込み、1時間半短縮しました。3歳まではあっという間なので、選べるといいと思います。

Q4：産休を取る時や復帰する時に不安に思っていましたか？

- ☞復帰の際には、漠然とした不安があり、一週間くらい前から落ち着かなかったです。
- ☞復帰先が変更になるかもしれないとの話を伺いましたが、出来れば早めに所属先を教えてくださいいただければと思いました。
- ☞一回目は自分の後に臨時の職員が雇用され、いずれ自分が戻ることが分かっていたので心配はありませんでした。二回目の時は状況が違い、どこに配属されるかわからず不安でした。復帰後の所属先をなるべく早めに教えて頂けると安心できると感じました。

Q5：復帰して不安はとれましたか？

- ☞不安でいっぱいでしたが、異動先の所長が面談の時間など取ってくれたのが心強かったです。同僚も話を聞いてくれて不安が徐々に軽減していきました。
- ☞復帰先が同じ事業所で、周りの方が温かく迎えてくれたので不安は少なくて済みました。
- ☞復帰した後は同僚が温かく迎えてくれましたが、自分の業務で何を求められているかわからないことがあり、不安でした。

Q6：2回目の取得時はどうでしたか？

- ☞1回目は事業所が異動したり、時短を申請したり、変更がありました。2回目は大きな変化はなかったです。
- ☞2回目は約3年休んだ後の復帰となったため、働く意欲は1回目より強くありました。
- ☞2回目は職場異動となりましたが、周りの職員も配慮してくださって、順調に復帰できています。

Q7：今後制度を利用することを検討している職員に伝えたいことはありますか？

- ☞子育ては自分が今しかできないことなので、使える制度は使い、ワークライフバランスを取りながら働けるように法人と話し合いをできると良いと思います。
- ☞無理をせず職場の方にサポートをもらいながら業務を進めていくとよいと思います。
- ☞自分がサポートする立場になったら、サポートすればよいので、自分でできないと決めつけずやってみるとよいと思います。
- ☞職場復帰する職員を受け入れてくださる事業所は優しい方が多いと思います。そんなに気張らずに制度を利用するとよいと思います。

Q1：育児でどのような事に協力されていますか？

- ☞なるべく子どもと一緒に入浴するようにしています。また、洗濯ものをたたんだり、食器の片づけ、ゴミ出しなど家事全般を行うよう心掛けています。



Q2：育児で大変だった事は？

- ☞子ども中心の生活になった事で、起床、食事、就寝時間など、全般に変えなければならないため、一人で過ごす時間やゆっくり過ごす時間が無くなってしまった事です。
- ☞子どもも5か月目に入り落ち着いてきましたが、とにかく泣いている時間が長く、常に抱っこしていました。



Q3：自らの働き方が変わりましたか？

- ☞残業をすると妻の負担や子どもの生活リズム崩れてしまうので、仕事を時間内に終える意識をより持つようになりました。
- ☞業務上遅くなる場合は、出来るだけ家事を手伝おうと考えています。

Q4：育児休暇を取りたいと思いましたが、又は今後取りたいと思いませんか？

- ☞必要であれば取得したいと思います。普段から休暇は取れる環境なので職場には助けられています。
- ☞今後、取得したいと思う部分もあるのですが、制度上どうしても賃金が下がってしまうので、正直悩んでいます・・・

まとめ

数名の女性職員から話を聞きました。国で定められた育休制度を利用し、子育てに集中できたことはありがたかったという声もありましたが、実際に自身の生活が大きく変化していく中で、職場復帰することには大きな不安があった様です。また、実際に復帰する際に同じ職場に戻った職員や異動した職員もいて、同じ復帰といっても状況は異なり、制度を運用していく中で、組織として復帰する職員に対してフォローをしていく体制が今後充実していくとよいと感じました。

男性職員にも話を聞きました。仕事で忙しい中、育児には協力的で、毎日仕事と家庭の両立は大変と感じました。男性の育児休暇取得が制度上認められている中で、今後は育児に男性も積極的に参加するために制度を活用して欲しいと思います。

実際に制度を活用した職員の話聞いて、制度を利用するだけでなく、法人全体として、制度を利用する職員への気遣いや思いやりのある声掛けをするなど、誰しもがワークライフバランスをとりながら働ける環境づくりを職員一人一人意識して行動できるとよいと感じました。